

横浜にぎわい座 令和5年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	加世田委員	高島委員	田中委員	廣瀬委員
使命1 大衆芸能と市民をつなげる	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々なジャンルの企画公演を指標を大きく超えて実施しました。</li> <li>公演に連動した展示を年間通して実施し、来館者の興味を促しました。</li> <li>HPに「芸能散歩」動画や「芸人伝」をアップし、大衆芸能の学びや興味に繋げていく積み上げを評価します。</li> <li>会員数、初来館者数が順調に増えています。窓口対応や広報の成果と推察します。</li> </ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業数、来場者数において当初目標を上回る実績を出しています。テーマを持った事業を企画する他、HP等での動画配信などにも取り組み、裾野の拡大、市民目線での情報発信に努めている点を評価します。</li> </ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データからリピーターが多いことが窺え、市民という幅広い対象を、ある程度細分化して事業構築、情報発信をするなど、確実に市民につなげるための戦略的な取り組みを期待したいです。</li> </ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜にぎわい寄席の初来館者の割合が達成指標40%届かなかったものの38.1%の数字は大いに評価できる。これは長谷川氏の企画等をはじめ魅力ある企画を打ち出した事が来館につながったものだと思う。初来館者のアンケートの声があれば是非お聞かせください。</li> </ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜にゆかりのある芸能者の企画を是非これからも重点的に取り組んでいただきたい。これにより、芸能を身近に感じ将来の芸能者が現れることに期待する。</li> </ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地元出身の作家長谷川伸没後60周年企画の公演・展示を実施したこと</li> <li>区民優待デーを実施してにぎわい座の市民への周知及び入場料収入の向上をはかったこと</li> <li>鑑賞型事業及び展示型事業の実施回数において、ともに前年度実績及び達成指標を上回ったこと</li> </ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞型事業の入場者数を達成指標に向けて増やすこと</li> </ul>
使命2 文化芸術活動と体験の場となる	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>予約システムを導入し、また施設見学にも数多く対応して、にぎわい座の体験につなげました。</li> <li>人気の寄席文字ワークショップのほか、小学生向けのマジック体験講座を実施し、大衆芸能の体験の場を増やしました。</li> </ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集客が難しいことも理解しますが、実施しなかった紙切り等について親しめる場を検討いただきたい。</li> <li>にぎわい座に練習室や制作室があることはまだ知られていないと思われます。一般市民に向けて、また市民利用施設等へも広報するなど、更なる周知に期待します。</li> </ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総来場者数は前年度を大幅に超え、前年度の動向を踏まえて事業内容を変更するなど、状況に柔軟に対応している点を評価します。</li> </ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験型事業の実施回数が予定よりも少なく、かつ特定の事業にのみ参加者が集まる傾向が示されています。多様な大衆芸能の継承や発展という視点も踏まえて、寄席文字体験、施設見学、マジック体験に固定化されていない体験事業の開発に期待したいです。</li> </ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験型ワークショップの開催は大いに評価できます。このことにより、芸能が身近に感じられるのではないのでしょうか。</li> </ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総来場者がコロナも落ち着いたことも要因と思われるが前年と比べ14,000人増加している。平常に戻ったことから、来場数増加に向けて魅力ある企画を打ち出して来場者獲得を目指して欲しい。</li> </ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>寄席文字体験講座、マジック体験講座をともに複数回実施して好評を得たこと</li> <li>施設予約システムを導入して利用しやすくしたこと</li> <li>総来場者数で前年度実績及び達成指標を大幅に上回る成果を上げたこと</li> <li>野毛まちなかキャンパスの講座を目標を上回って実施したこと</li> </ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小ホールの貸館利用率及び公演誘致数を達成指数に向けて高めること</li> <li>施設予約システムをインターネットでも利用できるようにすること</li> </ul>
使命3 大衆芸能を担う人材を育む	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若手演者育成事業として、登竜門シリーズに加え前座修行の場を設けるなど、指標を上回る回数実施しました。平均入場者数も指標の1.5倍となっていて、演者にとってもモチベーションに繋がったのではと推察します。</li> </ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>こどもをターゲットとした事業数だけをみると、実績は指標の約半分となっています。「こどもの鑑賞者育成として行えることは限られている」ことも理解できるので、指標の設定値も含め、今後の方向性を検討いただきたい。</li> </ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標よりも多く若手育成の場を設け、一定の入場者数（これも目標よりも多い）を確保している点を評価します。</li> </ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子供を対象とした事業数、若年層の入場者数が目標よりも少なく、施設の予算や人員を考えると、将来の鑑賞者・実演家育成のための事業全体をより効果的なものにするための見直しが必要と思います。年度ごとに具体的な目標を定め、ある年度は学校との連携事業に特化するなど、選択と集中を意識した取り組みを期待したいです。また、若手人材育成に関しては、場を提供することで表れている成果が示されるとより良いと思います。</li> </ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若手演者育成事業の実施回数が達成指数より多かつた事はそれだけ若手演者の育成に力を入れていることが伺えます。</li> </ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若手演者を育てるに関して子供をターゲットとした事業数を増やす事をお願いしたいと思っております。先日寄席を見に行ったとき、小学校の子供が、寄席を見て楽しそうに大人以上に声を上げて笑っていました。きっとどこかで芸能が身近に感じられ楽しいものだと思います。このことから、多くの子供が、芸能が身近に感じられるよう事業数を増やすことを希望します。</li> </ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若手育成事業の実施回数及び若手育成公演の平均入場者数において、ともに前年度実績及び達成指標を大幅に上回ったこと</li> <li>春夏のこども寄席2回、学校単位の団体鑑賞4校、学校プログラム2校、子どもを対象にしたワークショップ3回の実績</li> </ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>こどもをターゲットとした事業数及びにぎわい寄席への学生、こども入場者数を達成指標に向けて増やすこと</li> </ul>

横浜にぎわい座 令和5年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	加世田委員	高島委員	田中委員	廣瀬委員
<b>使命4</b> <b>創出する</b> 地域のにぎわいづくりを	<b>【評価する点】</b> ・大佛次郎記念館からの企画提案を新たな連携事業として特集展示や落語会を開催、赤レンガ倉庫1号館も含めた地域のにぎわいに貢献したことを評価します。特に半券提示の入館割引は、双方の施設の周知に効果的であったと思います。 ・野毛大道芸との連携や、野毛地区の「横浜にぎわい座利用促進委員会」と共催で目標値の倍の4回催事を行い、地域のにぎわいに貢献しました。  <b>【更なる取組を期待する点】</b> ・連携は単独実施より調整等の人的エネルギーが必要となりますが、連携事業は地域のにぎわいづくりへの相乗効果が期待できるので、人的体制を考慮しつつ続けていただきたい。	<b>【評価する点】</b> ・地域の団体との共催、他館や地域の団体と連携した事業に多く取り組み、地域の事業者と丁寧に調整しながら事業を進めている点を高く評価します。  <b>【更なる取組を期待する点】</b> ・現在の連携をさらに進め、施設の事業と地域のイベント・取り組みなどに相乗効果が生まれることを期待したいです。	<b>【更なる取組を期待する点】</b> ・地域との連携は非常に大事な事です。その連携を通じてにぎわい座が若者等に興味をもってもらえる要因となればと期待します。	<b>【評価する点】</b> ・「野毛大道芸」イベントとの連携を継続実施したこと ・野毛地区街づくり会との共催事業を4回実施したこと ・赤レンガ倉庫1号館、大佛次郎記念館との連携事業を実施したこと  <b>【更なる取組を期待する点】</b> ・前年度より大幅に改善した自主事業公演への団体誘致数を、達成指数に向けてさらに増やすこと
<b>使命5</b> <b>あらゆる人を受け入れる</b> 大衆芸能を切り口として	<b>【評価する点】</b> ・支援学校の問合せに対し、ヒアリングをもとに障害にあわせた配慮のある体制づくりを行いました。こうした積み重ねこそ、にぎわい座の評価になっていくと思います。 ・障がい者料金の利用数が指標の1.5倍で、多くの方に利用されたことを評価します。 ・外国人向けのバックステージツアーを開催し、外国人に向けた取組のきっかけを作りました。  <b>【更なる取組を期待する点】</b> ・障がいある方、認知症の方、それぞれ一括りにはできない個人対応が大事です。現場で学びを積み、施設としてバリアフリーを目指されることに引き続き期待します。 ・外国人向けには、横浜市国際交流協会との連携も考えられます。ご検討ください。	<b>【評価する点】</b> ・福祉団体へのインタビュー、支援学校への個別ヒアリングなど、障がい者、それを支援する専門家と丁寧な調整を経て事業を実施し、その結果として障がい者の利用者数が増えている点を高く評価します。加えて、初心者向けにわかりやすい短時間公演も行うなどの工夫も評価したいです。  <b>【更なる取組を期待する点】</b> ・子ども、高齢者、障がい者、外国人を対象としていますが、それぞれに置かれている状況は多様なため、もう少し具体的に対象を絞り、アプローチすること、さらにはアウトリーチにつながるような事業が展開されることを期待したいです。	<b>【評価する点】</b> ・障がい者への鑑賞に関し 多大なるは配慮を行い快適な鑑賞が達成できたこと評価します。  <b>【更なる取組を期待する点】</b> ・先日の鑑賞から観客の年齢層が高齢者が多いと感じました。若者にも興味をもってもらえるような企画を希望します。	<b>【評価する点】</b> ・横浜にぎわい寄席へのシニア入場者数及び障がい者料金利用数が前年度実績を大幅に上回り、ともに達成指標を超えたこと ・横浜市観光協会と協力して外国人向けツアーのコースの中でにぎわい座バックステージツアーを開催したこと  <b>【更なる取組を期待する点】</b> ・外国人向けイベントの充実にむけた検討
<b>使命6</b> <b>施設運営を行う</b> 持続可能性を高める	<b>【評価する点】</b> ・配管ユニットの不具合発生時には、関係機関や横浜市と調整し、利用者への影響やリスク対応も図りながら対応しました。  <b>【更なる取組を期待する点】</b> ・経年劣化、使用製品の生産終了を見据えた交換など、引き続き利用者に影響が出ない施設運営を期待します。 ・昨今、地震の心配も高まっています。地震発生時の対応訓練に期待します。	<b>【評価する点】</b> ・職員の来館者への対応がよく、来館者の施設に対する全体評価も高いことが示されていました。これは、使命4・5と同様に、職員の丁寧な仕事のやり方によるものと高く評価します。  <b>【更なる取組を期待する点】</b> ・設備の老朽化が課題になっています。修理が必要になりそうな設備をリストアップし、不具合が出る前の対応、出た際の対応を事前に定めて運営されていくこと期待したいです。	<b>【更なる取組を期待する点】</b> ・コロナ対応補助金が実施されないのに関わらず収支差額1,751,402円でした。支出の部を見ますと気になるのは設備保全費が多くなっていることです。建物の老朽化に伴い設備の維持管理には今後も多額になっていくこと予想されます。今後どのように維持管理をしてその予算をどのように配分するのか計画をたてることが早急に必要ではないでしょうか。今期はスポット清掃が少額なため全体としての管理費が決算額より少なくてすみましたが。	<b>【評価する点】</b> ・上半期に空調不調の期間があったにもかかわらず、計画した事業を継続して実施したこと ・全スタッフ参加による避難訓練を年間で2回実施したこと  <b>【更なる取組を期待する点】</b> ・民間との共同設備である機械式立体駐車場の頻発する故障への対応

横浜にぎわい座 令和5年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	加世田委員	高島委員	田中委員	廣瀬委員
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本の大衆芸能や伝統芸能への入口としての役割り」を担うにぎわい座として、多種多様な公演を数多く実施しました。特に長谷川伸没後60年記念、大佛次郎没後50年と機を捉えての事業は、幅広い市民層に関心を広げる効果があったと思います。</li> <li>・「芸能散歩」動画や「にぎわい座芸人伝」をHPにアップし、にぎわい座ならではの資料として意味ある蓄積をしています。引続きの取組に期待します。</li> <li>・「大衆芸能を担う人材を育む」使命に対し、特に若手演者の育成にしっかりと取り組んでいます。にぎわい座が登竜門として認識され、若手演者育成の場として認知されていることは素晴らしいです。</li> <li>・バリアフリーに施設を目指す中で、特に障がいある方に対する細やかな対応を評価します。現場からの学びを更に運営に活かして頂けるよう期待します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・総来場者数が、指標を大きく上回る90,000人を超えたことは様々な努力の成果の一つと思います。R8年の達成指標は110,000人とかなり高い数値になっています。数値だけの問題ではないですが、引続き来館者数増加に向けた取組みを期待します。</li> </ul> </li> <li>・体験型事業実施回数、公演誘致数が、指標に対して大きく下回っています。今後改善の方法があるのか、具体的に何をするのか、次年度以降の取組に期待します。</li> <li>・子ども向けには、例年の寄席に加え、初めてマジック講座を開催し体験の機会を広げました。ただし紙切りワークショップなど集客が難しいジャンルも何かしらの形で広めていただくことを期待します。</li> <li>・経年劣化が顕著になってくる年数なので、利用者に影響がないよう、早めの修理・調整に期待します。</li> </ul>	<p>全体を通して、大衆芸能と地域の両方の発展を見据えて、バランスの良い丁寧な運営がなされています。特に、地域、実演家、来場者とも良好な関係が築けている点を高く評価します。</p> <p>一方、子供向け事業と新しい鑑賞者層に向けた事業、これらの事業を支える収支バランスには課題があると思われます。前者は、規模の拡大を目指し、広く浅くなるよりは、対象とする層をより絞り、深く関心を持ってもらえるような事業にしていく視点もあると良いと思いました。後者については、自主事業収入と指定管理料以外の収入を増やせるよう、3～5年先を見据えた段階的な取り組みがなされていくことを期待したいです。最後に、公立施設として、実演家数・鑑賞者数の多い落語以外の芸能、鑑賞者には馴染みのない作品等をどのように扱っていくのか、その方針が示されるとより良いと思います。</p>	<p>コロナも一応は落ち着き来場者数も増え利用収入も増えました。</p> <p>コロナの影響はあったとはいえ 貴社の企画等の成果があつたのではないのでしょうか？</p> <p>今後も魅力ある企画を出して 横浜にぎわい座が横浜市民にとってますます身近感じられる存在になること、新しい大衆芸能を担う人材の確保に向け育てるための努力を期待します。</p>	<p>空調不調期間があったため予定の事業を実施するにはご苦勞が多かったのではと拝察します。総来場者数が前年度より大幅増となり、よかったと思います。</p> <p>「大衆芸能と市民をつなげる」、「大衆芸能をはじめとした文化芸術活動と体験の場となる」、「大衆芸能を担う人材を育む」、「地域のにぎわいを創出する」、「大衆芸能を切り口としてあらゆる人を受け入れる」、「持続可能性を高める施設運営を行う」との、にぎわい座の使命を立派に果たされたと思います。</p> <p>開館以来20数年を経て館内施設設備及び民間との共同設備の維持保全について、引き続き横浜市と十分検討協議して事業運営に支障がないようにしていただければと思います。</p>

令和5年度 横浜市芸能センター(横浜にぎわい座) 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 大衆芸能に係る公演の企画・実施と情報の収集・提供 <b>(使命1:大衆芸能と市民をつなげる)</b>	幅広い大衆芸能の演目について、市民ニーズに応えた多彩な構成で魅力的な公演を常時、企画・実施する	□横浜にぎわい寄席	84回	84回	目標通り実施。	【成果】 コロナ禍からの脱却に伴い、落語を中心に徐々に鑑賞者が戻ってきました。回復の勢いは年度末になるにつれ加速しており、来年度はさらなる成果が見込まれます。また、新たなファン層の開拓の一環としてHPIに「芸能散歩」動画10本、「にぎわい座芸人伝」玉川福太郎12回分をアップしました。  【課題】 鑑賞者だけでなく、演者にも世代交代の波が押し寄せています。若い世代が育って良い形で表れている芸能もあれば、そうでないものもあり、今後も落語を中心とした公演が続くことになると予想されます。	【評価できる点】 ・大衆文学作家として活躍した長谷川伸氏の没後60年という節目の年に、企画展「長谷川伸とふるさと横浜」や長谷川氏の業績や作品をテーマにした落語・浪曲・講談の公演を企画し、文学継承に取り組んだことを評価します。  ・令和5年7月興行を南区民優待デーとして実施し、南区制80周年記念事業に協力し、また、区民優待デーに関する広報活動を通じて横浜にぎわい座の知名度も上がり、チケット販売実績に貢献するなど集客効果にもつながったことを評価します。  ・登竜門シリーズinのげシャレを始め、横浜にぎわい寄席や独演会等で若手演者を積極的な登用を行い、若手演者育成事業を年間205回実施し、令和5年度指標の年間180回を大きく上回ったことを評価します。  ・近年流行している趣味である「野球」、「鉄道」、「キャンプ」や今年度は新しく「歴史」をテーマに落語会や演芸会を企画することで、敷居が高いと感じられる大衆芸能に足を運んでみたくなるきっかけを与え、新たな集客の獲得を狙った事業に積極的に取り組んだことを評価します。  ・野毛という地域を理解しながら地域団体との調整を行い、野毛地区のイベント開催時にも積極的な協力体制を図り、継続的な関係性を育てていることを評価します。  ・赤レンガ倉庫1号館や大佛次郎記念館の他施設と相互連携して、時期を狙った特集展示や落語の特別企画、半券提示による入館割引制度に取り組むことで来場者の市内周遊を促し、地域のにぎわいづくりに貢献したことを評価します。  ・横浜にぎわい座を誰もが楽しめる場として提供するために、障がいのある方による団体鑑賞の受入れ前にヒアリングを実施し、バリアフリー運営に工夫して取り組み、障がいのある方にも利用しやすい環境づくりを提供したことを評価します。  【更なる取組を期待する点】 ・演者の世代交代に厳しい波が押し寄せてきていますが、にぎわい座が若手演者の人材育成の場となるような、公共施設として文化活動を守り、次世代に大衆芸能をつなげていく取組の継続をお願いします。  ・施設利用者からのアンケート結果を踏まて、分析を行い、事業の振り返りや課題解決に役立てていき、利用者ニーズに応えた施設運営につながる取組を期待します。  ・市民が大衆芸能に触れ、関心や興味を持つ機会を増やすため、寄席体験や学校等へのアウトリーチのほか、引き続き、切れ目のない事業の実施をお願いします。特に子供に対して、文化芸術活動体験を提供する取り組みの強化を期待します。
		□企画公演	120回	129回	「江戸家猫八騒名披露公演」「クライマックス寄席」12回その他、柳家三三公演が出演者の希望でにぎわい寄席公演の夜に行われることもあり、例年、目標より多くなる傾向があります。		
		□登竜門シリーズ in のげシャレ	25回	21回	出演者の成長度合いを見たため、目標より下回りました。令和6年度は卒業、新規参入もあり、出演者の顔ぶれが変化します。		
		□2023年6月に作家長谷川伸の没後60年の命日に当たり、展示、公演の2本柱による記念事業を行います。	実施	展示実施 I-1-(4)「展示・演出」にて記載、公演3回	4/4-6/30企画展示「長谷川伸とふるさと横浜」 5/27 明日の浪曲シリーズにて「暎の母」ほか 6/11 林家たい平独演会にて「人情斬 生い立ち」 6/18 宝井琴鶴「神奈川を読む」で講談2曲		
	大衆芸能と市民が触れ合い、関心や興味を持つ機会を増やし、若い年代を中心に鑑賞者の拡大をはかる事業を行う	□趣味をテーマにした落語会、演芸会	2回	4回	歴史好き公演を新規追加。今後は毎年3~4公演で行う予定です。		
		□こども寄席、寄席体験プログラム、学校単位の団体鑑賞	14回	13回	こども寄席2回 寄席体験プログラム7回 学校単位の団体鑑賞4回実施		
		□アウトリーチ	2回	3回	先方の要望に沿って実施し、目標を上回りました。		
		□ワークショップ、講座	5回	2講座 5回	目標通り実施。 寄席文字体験講座 午前15人・午後15名 計30名 マジック体験講座 8名(のべ24名)		
	主催公演をデータベース化し、大衆芸能に関する情報とともに広報に役立てる	■野毛地域の協力を得て広報物を配布するとともに、各種媒体への働きかけ、オウンドメディアの積極的な活用による大衆芸能の魅力を発信します。	通年	実施	目標通り実施。 HPIに「芸能散歩」動画10本を6月にアップ。「にぎわい座芸人伝」に玉川福太郎12回分を7~9月にアップ。 2/20にR6年度事業についてのプレス懇談会を開催。 野毛の店舗にポスター掲示の依頼をしており、野毛地区商店街と継続的な協力関係にあります。		
		■開館以来の出演者・演目をアーカイブし、出演者の経歴や演目解説も記した「電子根多帳」をホームページ上で公開します。	通年	実施	目標通り実施。		
	展示・演出	■常設展、企画展のための調査、研究を進めるとともに、コロナ禍の状況に留意しながら展示替えを行います。	3回	12回	公演に連動した展示を年間切れ目なく実施しました。		
		■年間を通して館内装飾を変え、落語にとって大切な季節感を演出します。	10回	9回	館内装飾は季節にあわせて9種類でしたが、館内に常に装飾がある演出を行いました。		
2 大衆芸能の体験の場の提供 <b>(使命2:大衆芸能をはじめとした文化芸術活動と体験の場となる)</b>	大衆芸能をはじめとした文化芸術活動の体験の場の提供	□寄席文字ワークショップ	1回	2回	寄席文字体験講座 午前の部15人・午後の部15名 計30名。約2時間で筆と墨を使い「寄席文字」の書き方の手ほどきを受けるワークショップ。若い方からご年配までまんべんなくご参加がありました。	【成果】 寄席文字ワークショップは例年、年齢を問わず人気があります。今年度は新たに小学生向けのマジック体験講座を行いました。参加者からも好評でしたので、来年度につながる内容となりました。  【課題】 ワークショップ単体では収益が見込めないため、予算確保が重要となっています。助成金獲得が難しい大衆芸能にとっては、収支をバランスさせながら事業を行うことは常に経営課題です。	
□水戸大神楽曲芸ワークショップ		1回	実施なし	小学生対象の「マジック体験講座」を替えて実施			
□紙切りワークショップ		1回	実施なし	・令和4年度に思うように集客ができず、マジックワークショップに変更。 ・令和6年度もマジックワークショップを実施			
□寄席体験プログラム(再掲)		(I文化事業3-2再掲)					
□学校プログラム(再掲)		(I文化事業3-2再掲)					
□野毛まちなかキャンパス		1回	2回	主催者からの要望があり、コロナ禍前に行っていた演芸に関する講座を1回ふやしました。			

令和5年度 横浜市芸術センター(横浜にぎわい座) 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
3 子どもたちや若手演者をはじめとした次世代育成 <b>(使命3:大衆芸能を担う人材を育む)</b>	1 大衆芸能を支えていくような若手芸人育成	□登竜門シリーズ in のげシャールレ(再掲) ■にぎわい寄席等での前座修行の場、落語両協会の前座交流の場として若手演者育成に貢献します。	(I文化事業1-1再掲) 通年	実施	目標通り実施。この取組内容が演芸界が当館を認知することにつながっています。	【成果】 大衆芸能の実演家にとって、当館は道場であり、檜舞台であるという認識を頂いており、当館の自主公演、特に育成公演への出演を熱望するという声もいただいております。  【課題】 少ない人員で多くの自主公演を行い、そこから出演料も検出している当館にとって、こどもの鑑賞者育成として行えることは限られています。大衆芸能や横浜の芸能の歴史を伝える常設展示の場を設け、こどもたちの学習の場として活用してもらうことも、ひとつの方法であると考えます。	
	2 子どもの創造性育成の取組	□こども寄席	2回	2回	春休みと夏休みの期間に2回実施		
		□寄席体験プログラム	6回	7回	市内小学校を対象に開催、参加19校(主催 文化庁・落語芸術家協会、当館は開催協力)		
		□学校単位の団体鑑賞	2回	4回	【説明の記入をお願いします。】 賞切はお囃子体験、落語、曲芸、漫才の鑑賞など。団体鑑賞はにぎわい寄席の鑑賞・延べ599名(うち生徒554人)が鑑賞		
		□学校プログラム	3校	2校	横浜市芸術文化教育プラットフォーム事業による落語の鑑賞型プログラムを2校で実施。		
		□子どもを対象としたワークショップや講座	4回	1講座(3回)	新規のワークショップとして、小学生対象のマジック講座を初開催しました。参加児童の負担を考え、講師から全3回が適切との助言を頂きました。		
		■大衆芸能に関するワンストップ窓口機能や学生や生徒の受け入れを実施します。	通年	実施 受入2校	目標通り実施。		
4 野毛地区のにぎわいづくり等への寄与 <b>(使命4:地域のにぎわいを創出する)</b>	1 地域のにぎわいづくりに寄与	□野毛で開催される一大イベント「野毛大道芸」との連携を継続します。	1回	1回	目標通り実施。	【成果】 大佛次郎の没後50年の周年事業として大佛次郎記念館から「落語と大佛次郎」の企画提案があり、新たな連携事業の開催および半券提示による入館割引による相互の施設の周知機会を増やしました。  【課題】 他館との連携については多くの調整が必要ですが、財団ならではの総合力を活かし、今後も施設連携について検討していきます。 地域のにぎわいづくりに寄与する方策としては、野毛大道芸や芸能の舞台となった横浜市内、神奈川県内などの展示による紹介、地域の魅力の再発見につながる試みを継続していくことも大事だと考えます。	
		□野毛地区街づくり会の「横浜にぎわい座利用促進委員会」と共催で催事を開催します。	2回	4回	「横浜にぎわい座利用促進委員会」と共催で4回催事を行いました。		
		■ツイッター等を活用し「周辺情報」として野毛のイベントを紹介します。	通年	未実施	公演情報や大衆芸能情報の発信に特化して行っている中、「周辺情報発信」については広報の方向性や効果を考え、今年度は実施を見送りました。		
		■1階エントランスを地域に貢献する空間として、地域団体の要請に基づき活用を推進します。	要請に応じて 実施	実施	横浜市内の観光・集客施設の周遊を促進するイベント「花咲くRally」(主催:関内・関外地区活性化協議会)に参画し、「野毛大道芸」の開催に併せてスタンプラリーのスポットとしてエントランスを活用しました。		
	■終演後に野毛の飲食店を楽しむ企画づくりのため「野毛飲食業協同組合」等と連携します。	実施	未実施	通年の活動が野毛のにぎわいに貢献しているという評価を頂いているため、特定の公演の企画は行いませんでした。			
2 他施設等との連携	□赤レンガ倉庫1号館など各財団所管専門施設の専門分野を活かして共同で事業を実施します。	1回	4回	赤レンガ倉庫1号館に加え、大佛次郎記念館と連携し、没後60年となる長谷川伸に焦点をあてた特集展示を1回と、大佛次郎没後50年にちなんだ展示2回・落語会2回を行いました。			
3 都市戦略との連携	□都心部の専門文化施設の一つとして、横浜アーツフェスティバルに積極的に参画します。	1回	1回	音楽、ダンス、美術という毎年のテーマごとのアーツフェスティバル事業は終了していますが、ダンスコレクションに会場提供の形で協力を行いました。			
5 様々な市民等が大衆芸能に触れる機会を創出 <b>(使命5:大衆芸能を切り口としてあらゆる人を受け入れる)</b>	1 視覚障がい者、聴覚障がい者の鑑賞体制充実へ向けてのステップアップ	■視覚や聴覚に障がいのある方も健常者と一緒に演芸を楽しめる環境づくりを目指して、研究を進めます。	実施	実施	にぎわい寄席を始めとした各公演で障がいのある方も受け入れています。	【成果】 他の演芸場が3時間以上の寄席公演を行っている中、当館は初心者が抵抗なく鑑賞できるよう2時間での公演を実施しています。年度末になるにつれ、団体客も増え始め、成果が現れつつあります。  【課題】 にぎわい寄席においては高齢者、障がいのある方、学生などの割引制度を継続し、だれもが身近に大衆芸能を楽しめる施設として存続していくことが求められています。にぎわい座の施設自体の周知にも今後は力を入れていきます。	
	2 子どもが大衆芸能に接する機会をつくる(I文化事業3-2再掲)	■寄席体験プログラム、学校プログラム、こども寄席などの実施(再掲)	(I文化事業3-2再掲)				
	3 高齢者が鑑賞しやすい施設運営	■インターネットを使用されないお客様にも配慮し、紙チラシの作成を継続します。	実施	実施	チラシ配布のほか、ファックス送付サービスも継続しています。		
		■シニア割引等を設定し、比較的購入しやすい価格帯に抑えます。	実施	実施	目標通り実施。		
	4 障がいのある方にも利用しやすい環境づくり(Ⅵ その他別掲)	■サービス介助士有資格者を現場に配置します。	実施	実施	目標通り実施。		
■自主事業においては、盲導犬など補助犬の同伴受け入れ、障がい者および同伴者1名の割引料金を設定します。		実施	実施	目標通り実施。			
5 外国人に向けた取り組み	■外国人のお客様に大衆芸能をお楽しみいただける企画を研究します。	実施	実施	横浜観光コンベンションビューローと協力して、近隣施設を回るツアーに組み込む手法で外国人向けのバックステージツアーを4回開催しました。			

令和5年度 横浜市芸能センター(横浜にぎわい座) 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価	
1 大衆芸能等の公演、練習、創作その他の活動のための施設の提供  (使命2:大衆芸能をはじめとした文化芸術活動と体験の場となる)	1 施設の提供	■大衆芸能利用を優先し、大衆芸能とそれ以外のジャンルでは申込開始日を変えて受け付けします。	実施	実施	記載のとおり実施	【成果】 大衆芸能を中心に様々な文化活動の場を提供し、利用率が芸能ホールは75(74)%, のげシャワーは50(48)%となりました。 ※( )内は前年度  貸館にWEB予約システム「いつでも貸館」を導入し、個人情報管理の強化、予約オペレーションの効率化を達成しました。  【課題】 コロナ5類移行後の利用率はゆるやかに回復しつつありますが、芸能ホール、のげシャワーの利用率の向上については引き続き課題として捉えています。 お客様の公演時の飲食に関するマインドが変化しており、現時点では主催公演でのアルコールと食事の禁止を継続しています。同業他施設の動向を参考にしながら、アルコール提供を希望する「のげ茶屋」の再開について協議を続ける予定です。	【評価できる点】 ・興行前後の時間帯を活用した場の提供として、子どもや外国人観光客向けのバックステージツアーの実施し、新しい客層から横浜にぎわい座や大衆芸能に興味をもってもらったことに取り組みました。  【更なる取組を期待する点】 ・総来場者数が令和4年度の76,669人から令和5年度は90,691人と18%増加しており、コロナ禍が明け、全体的に回復傾向にあります。引き続き、令和8年度指標に掲げている総来場者数110,000人が達成できるよう、今後の取組に期待します。  ・芸能ホール(大ホール)、のげシャワー(小ホール)ともに、令和8年度貸館利用率の達成指標と令和5年度実績が離れていますので、貸館利用率の向上に対する具体的な取組の考えをお願いします。  ・新型コロナウイルス感染症対策のため営業休止としている、のげ茶屋(売店)の今後の運営について、利用者のニーズや他施設の運営方針を参考にしながら、引き続き、野毛飲食協同組合と協議をお願いします。	
		■利用は、午前10時～午後10時とし利用者からの要望による早入・延長利用は、近隣に配慮しながら可能な範囲で対応します。	実施	実施	記載のとおり実施			
	2 貸館の運営	■貸館受付は午前10時から午後9時、にぎわいスタッフまたは事務室職員が対応します。	実施	実施	5月から施設貸出予約システム「いつでも貸館」を導入し、紙台帳による予約管理から移行しました。			
		■貸館利用時は芸能ホール、小ホールともに舞台技術員1名を配置します。	実施	実施	記載のとおり実施			
	3 利用促進及びサービスの向上	■寄席間を使用した経常公演前後のホール活用	■1階エントランスを地域に貢献する空間として、地域団体の要請に基づき活用を推進します。(再掲)	(I文化事業4-1再掲)				4/28/6 こども寄席バックステージツアー(横浜の大衆芸能と当館の歴史。楽屋や舞台袖の見学、鳴り物の説明)11/7,12/7は大人向け。内容はこども寄席と同じ。
			■施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	(使命6定性①)	実施			
□2階受付でお土産販売を行います。(年間売上目標)			100千円	149,523	目標達成			
■野毛茶屋は、野毛飲食業協同組合と連携し、コロナ禍収束を見据え再開にむけた協議を継続します。			継続	継続	公演時の飲食に関する方針について、折々に野毛飲食協同組合との話し合いをしています。			
2 組織的な施設運営(様式10)	1 必要人材の配置と職能	□施設長(館長)	配置	配置	記載のとおり配置			
		□経営に係る責任者	配置	配置	記載のとおり配置			
		□事業に係る責任者	配置	配置	記載のとおり配置			
		□運営業務及び施設の維持・管理に係る責任者	配置	配置	記載のとおり配置			
		□事業担当者(3名)	配置	配置	4名配置			
		□運営管理担当者(3名)	配置	配置	2名配置			
		□公演表方統括(1名)	配置	配置	2名配置			
		□にぎわいスタッフ(約30名)	配置	配置	28名配置			
	2 主要人材の能力担保	■専門職員研修	通年	実施	財団中期経営計画に基づく専門人材研修にチーフプロデューサー(館長)が参加			
		■MBO	通年	財団人事制度制度変更につき実施なし	「業務進捗管理シート」による業務執行管理と目標設定に今年度より移行			
■事業制作、経理、広報、人権、コンプライアンス等の組織内研修		通年	実施	月1回のコンプライアンス委員会の情報を施設内で情報共有				
■日常業務におけるOJT		通年	実施					
	□施設内全体研修会	2回	2回	5月と11月に2回研修実施				
3 施設全体の運営に対するアイデア・ノウハウの一層の活用(様式22)	1 経常公演前後のホール活用	□寄席体験プログラム(再掲)	(I文化事業3-2再掲)					
		□貸切公演(再掲)	(I文化事業3-2再掲)					
		□撮影での貸出	2回	2回	9月と1月の2回、貸出しを行いました。			
		■ホール見学会	要請に応じて実施	42回	利用者の下見に対応			
		□バックステージツアー	5回	4回	1 大衆芸能等の公演、練習、創作その他の活動のための施設の提供 3「利用促進及びサービスの向上」に記載のとおり			
		■前座の太鼓練習の場	要請に応じて実施	実施	目標通り実施			
2 1階エントランスの活用	□地域に貢献する空間として、地域団体の要請に基づき活用を推進します。	(I文化事業4-1再掲)						
3 配信事業	□主催興行の映像化を制作会社にアピールします。	実施	問合せに対応					
4 その他施設運営に関する事項	1 休館日の届け出		実施	実施	適切に実施しました。			
	2 許認可及び届け出		実施	実施	適切に実施しました。			
	3 目的外使用料の申請		実施	実施	適切に実施しました。			
	4 財務状況の確認		実施	実施	適切に実施しました。			

令和5年度 横浜市芸能センター(横浜にぎわい座) 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
Ⅲ施設管理	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 保守管理業務 (使命6:持続可能性を高める施設運営を行う)	1 日常点検業務・定期点検業務	■「指定管理者業務の基準」ならびに「同別添資料」に示された保守点検業務を着実に遺漏なく実施します。	実施	実施	予定通り実施	【成果】 設備の不具合発生時には設備業者、保守管理会社や管理組合と連絡調整が行われ、市側とも適切に共有が行われました。  【課題】 開館から21年経ち設備の老朽化が進んでおり、不具合の突発的な発生や、部品供給が終了し修繕ができない事態も十分予想されます。 冷却塔配管ユニット工事については、4月に重大な不調が発覚したのち、ホールの使用停止も想定しながらの施設運営となりました。8月下旬に緊急工事が決定するまで、代替会場を急遽手配しながら館を運営することとなり、状況的にも資金的にも厳しい事態が生じました。 舞台用の白熱電球の生産が終了する予定のため、芸能ホール・小ホール照明機構のLED化および、生産終了品のフロッピーディスクを使用している芸能ホールの調光卓は、不具合時には施設の利用が不能となるリスクを抱えており、更新時期について早急な検討が必要です。	【評価できる点】 設備の不具合発生時には設備業者、保守管理会社や管理組合と連絡調整が行われ、市側とも適切に共有が行われました。  【更なる取組を期待する点】 舞台設備の更新時期が過ぎており、経年劣化が進んでいますが、今後は、優先順位をつけて、どのように対応していくか長期的な検討が必要です。建物や設備の状況把握し、保守保全を行い、引き続き、施設維持管理の実施と本市への情報共有をお願いします。
		■定期点検を各月2日程度保守点検日を設けて計画的に実施します。	実施	実施	予定通り実施		
	2 施設及び設備の維持保全及び修繕	■点検を通して発見された軽微な不具合箇所について迅速に対応します。	実施	実施	4月に冷却塔1号機の配管漏れが発生し、8月末に1号機の配管ユニットの交換工事を横浜市の負担で緊急に実施し、再び安定した全館冷房を提供できるようになりました。		
■多額の費用や期間を必要とする修繕箇所や、耐用年数等により対応が必要とされる事案については横浜市所管課に報告します。		実施	実施	適切に実施しました。 冷却塔1号機の配管漏れのついては猛暑時にホールの空調が稼働しない恐れがあり、8月末に横浜市の負担で緊急工事実施となりました。			
3 備品等の適切な管理	備品等の適切な管理	■備品等は、常に良好な状態に保ち、管理します。	実施	実施	9月と3月に老朽化した音響パワーアンプ(計4台)を交換済		
		□年1回、物品管理簿の棚卸を行い、物品が適切に管理されているか確認し、市に報告します。	実施	実施	適切に実施しました。		
2 環境維持管理業務 (使命6:持続可能性を高める施設運営を行う)	1 清掃業務	■「指定管理者業務の基準」ならびに「同別添資料」に記載された環境維持管理業務を着実に遺漏なく実施します。	実施	実施	適切に実施しました。	【成果】 業務の基準等に従い適切に実施しました。  【課題】	
		■施設の利用状況等について建物管理会社と緊密に連携を取りながら、利用者がいつでも快適に施設を利用できるよう実施します。	実施	実施	清掃の契約対象外で汚れが目立っていた2F事務室外のバルコニーについてスポット清掃を実施。		
	2 廃棄物処理及び環境への配慮	■施設から発生する廃棄物の発生抑制に努めます。	実施	実施	毎月実施。数年分の廃棄備品を2月にまとめて処分しました。		
3 保安警備業務 (使命6:持続可能性を高める施設運営を行う)	保安警備業務	■法令に従い、浮遊粉じん・二酸化炭素・一酸化炭素・温度・相対湿度・気流の空気環境の測定を2か月に1回実施します。	実施	実施	奇数月に実施 空気環境測定は冬場の芸能ホール客席の湿度が低くなる(40~70%が適正範囲)傾向があります。		
		■施設内の保安業務は、管理組合と十分な協議を行った上で実施します。	実施	実施	適切に実施しました。		
4 防火・防災等 (使命6:持続可能性を高める施設運営を行う)	平常時の防災対策	■消防法に基づき、甲種防火管理者を選任した上で防災計画書を作成します。	実施	実施	7月に防火対象物に係る特例の認定を、中消防署から受けました。これにより、防火対象物の点検・報告が3年間免除になります。	【成果】 年に2回、休館日を利用して全スタッフで火災避難訓練を行い、避難経路の確認・避難の手順を確認しています。またAEDの使用法を定期的に訓練し、いざというときに対応できるよう平時から備えています。  【課題】 火災だけでなく地震発生時の対応について対処できるような訓練を実施します。	
		■自衛組織を結成し、日常の防火・防災に努めます。	実施	実施	5/11に避難訓練、11/22に貸館中に火災発報の想定での通報・避難の訓練を行い、いざという時の手順を確認しました。11月はAEDの訓練も行いました。		
		■横浜市防災計画に基づき、対応マニュアルをあらかじめ作成します。	実施	実施	過年度に作成した対応マニュアルを備え置きしています。通報のマニュアル等すぐに必要な部分は館内に掲示してあります。		
		■AEDを導入し、適切な管理及び職員への十分な操作研修を実施します。	実施	実施	AEDは事務室と3Fホワイエの2か所・合計2台設置済み。AED研修を11/22に実施しました。		
5 緊急時の対応 (使命6:持続可能性を高める施設運営を行う)	大規模災害への備え	■行政機関において災害対策本部等が設置された場合は、その指示に従うとともに、行政機関と協力し災害対応に協力します。	実施	実施	記載のとおり実施	【成果】 業務の基準等に従い実施しました。  【課題】	
		■大規模災害に備え、保存食や簡易トイレなど災害備蓄品を常備し適切に維持管理します。	実施	実施	7年ぶりに非常用飲料水を入れ替えました。		
6 その他施設管理に関する事項	1 駐車場管理業務	■横浜にぎわい座専用として持つ33台分の機械式駐車場を安全に適切に管理します。	実施	実施	機械式立体駐車場は故障が頻発しており、実際利用できる台数は半数に留まっています。	【成果】 業務の基準等に従い実施しました。  【課題】	
	2 施設の管理を行う上で必要な資格者の配置	□甲種防火管理者	配置	実施	記載のとおり実施		
		□サービス助手	(I文化事業5-4再掲)				

令和5年度 横浜市芸能センター(横浜にぎわい座) 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 指定管理料のみに依存しない収入構造(様式22)	1 自主事業収入	□主催公演200事業以上などを実施し、110百万円の事業収入を目標とします。	125百万円	109,132,834	概ね目標に近い数値となりました。	【成果】 自主事業においては着実に客足がもどつつあります。  【課題】 主催事業はR6年度も堅調な集客を目指しつつ、貸館においても利用者増加に向けた取り組みを継続します。	【評価できる点】 ・収入確保について、自主事業収入は予算額に到達できませんでしたが、前年度と比較すると10%収入実績が増加しています。また、利用料金収入も前年度と比較して増加しており、回復傾向にあります。  【更なる取組を期待する点】 ・収入確保では、協賛金・助成金・負担金・補助金収入の確保が課題です。主に補助金による収入となっていますが、予算額と比較して決算額が11%の収入率となっています。予算額と決算額の差額が大きいと、収支バランスにも影響があり、事業費に影響を及ぼさないためにも、慎重な検討をお願いします。
	2 利用料金収入	□共催事業等の誘致等に取り組み、12百万円の利用料金収入を目標とします。	17.5百万円	15,952,750	利用が当初の予想より回復し、R5年度予算の1200万円を約400万円上回りました。		
	3 その他の収入	□収録料、チケット受託販売、お土産販売などに取組み、70万円の雑収入を目標とします。	72万円	672,890	3万円ほど目標に届きませんでしたが、寄付金11万円を含めると目標達成しています。		
2 経費削減等効率的運営の努力(様式22)	1 人件費の抑制	■サービスを低下させずに柔軟な人員配置を推進します。	推進	実施	超勤上限目標 10.5H/月を常に下回る	【成果】 職員の超勤については事前申請を徹底しコントロールを図りました。また舞台スタッフを公演数に応じた配置とすることで委託費を抑制しました。 【課題】 人件費や光熱水費の上昇が収支バランスに大きな影響を与えています。	
	2 委託費の抑制	■前座育成と舞台技術員の配置抑制を併せて推進します。	推進	実施	記載のとおり実施		
	3 印刷製本費の抑制	■広報手法の多様化にあわせ公演チラシの作成部数を抑制します。	抑制	実施	記載のとおり実施		
V 各種計画書・報告書の作成及び業務評価	業務の基準	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
各種計画書・報告書の作成	1 日報、月報の作成・管理	□業務日報の作成	実施	実施	記載のとおり実施	【成果】 業務の基準等に従い実施しました。  【課題】	【評価できる点】 業務の基準等に従い適切に実施されたことを評価します。
		□管理運営月等をモニタリングにおいて報告	実施	実施	記載のとおり実施		
	2 事業計画書・事業報告書の作成・管理	□事業計画書・事業報告書の作成	実施	作成	記載のとおり実施		
		□事業計画に沿って成果が見える報告書を作成	実施	作成	記載のとおり実施		
	3 業務評価の実施	□自己評価	実施	作成	記載のとおり実施		
VI その他	選定要項	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 市の重要政策課題への対応(様式23)	1 個人情報保護についての取組	■当財団の定める「個人情報保護方針」等に基づき適切に対応します。	実施	実施	記載のとおり実施	【成果】 業務の基準等に従い実施しました。  【課題】 人権研修への参加ができなかったため、R6年度は横浜市主催のオンライン研修などに職員の積極的な参加を促します。	【評価できる点】 業務の基準等に従い適切に実施されたことを評価します。
	2 情報公開についての取組	■ホームページ等で業務計画、業務報告、事業・施設の状態を積極的に提供します。	実施	実施	記載のとおり実施		
		■当財団定める「情報公開規程」等に基づき適正に対応します。	実施	実施	記載のとおり実施		
	3 人権尊重についての取組	■職員に対して人権に関する研修を実施します。	実施	なし	全体研修において支配人が講師をつとめハラスメント研修を実施しました。令和6年度は横浜市で主催されるオンライン研修に、職員を2名以上受講させます。		
	4 環境への配慮に関する取組	■施設の利用状況に合わせて不要な点灯や空調稼働を最大限抑制します。	実施	実施	記載のとおり実施		
		■広報手法の多様化にあわせ公演チラシの作成部数を抑制します。	実施	実施	記載のとおり実施		
		■利用者によるごみの分別状況を確認し分別の徹底を依頼します。	実施	実施	記載のとおり実施		
5 障害者差別解消	■芸能ホールの車イス席や磁気ループシステムと貸出用補聴器、貸出用車イス、多目的トイレ、身障者用駐車スペース等の設備を整えます。 ■障がい者支援施設等へのアウトリーチ公演を実施します。	実施	実施	記載のとおり実施	にしよこ寄席を2回開催		
6 男女共同参画	■男性・女性の別なく職員が活躍する職場づくりを行います。	実施	実施	記載のとおり実施			
7 市内中小企業優先発注についての取組	■原則として業務委託と物品購入は横浜市「物品・委託等有資格者名簿」に登録された企業に発注します。	実施	実施	記載のとおり実施			
2 その他	1 保険及び損害賠償の取扱い	■施設賠償責任、動産総合、レジャーサービス施設の各種保険に加入	実施	実施	記載のとおり実施	【成果】 業務の基準等に従い実施しました。  【課題】	
	2 関係法令等の順守	■業務の基準等の定めに応じた関係法令を順守する。	実施	実施	記載のとおり実施		
	3 市及び関係機関等との連絡調整	■事故や不具合時は速やかに報告し、随時共有する。	実施	実施	記載のとおり実施		
■野毛町三丁目北地区ビル管理組合の会合等に参加します。		実施	実施	記載のとおり実施			
	■野毛地区まちづくり会等地域組織の会合等に参加します。	実施	参加	野毛地区まちづくり会の総会に出席しました。			

令和5年度 横浜市芸術センター（横浜にぎわい座） 指定管理業務計画表兼評価表（自己評価・行政評価）

総括		評価	
自己評価	行政評価	自己評価	行政評価
<p><b>【成果】</b> 5月にコロナが5類に移行し、通常を取り戻し始めた1年となりました。事業については落語界の世代交代の流れを受けた形で番組を組むことが集客に結びついています。</p> <p>（使命1） ・毎月1～15日に公演を行う常打ちの寄席施設として愛好者に周知され、堅実な集客に結びついていると感じています。年間公演数は234回と、指標を大きく上回りました。また寄席体験、学校や外の施設でのアウトリーチ開催により、多様な世代・様々な地域での大衆芸能の魅力の発信に努めました。（報道実績：新聞24件、「横浜にぎわい座では、横浜ゆかりの文豪の年忌企画が続いた。（中略）追悼で終わらせず、今の観客に響く番組へと練り上げた、企画力の勝利だ。（朝日新聞令和5年12月22日／回顧2023）」） ・館のWEBサイトに動画「芸能散歩」「にぎわい座芸人伝」を合計22本アップ、また2月にはプレス懇談会を開き、館としてのプレゼンスを高めました。</p> <p>（使命2） ・施設の貸出に関して、施設予約システムを導入し、スムーズな貸館運営の基盤を整えました。</p> <p>（使命3） ・のげシャレードの「登竜門シリーズ」企画は若手演者の鍛錬の場の提供と、それを応援する観客の育成、「こども寄席」開催による次世代観客層の育成を図りました。 ・本年度は初めてこども向けの「マジック体験講座」を全3日間で開催し、大衆芸能への興味・関心を開く機会となりました。</p> <p>（使命4） ・野毛地区カラオケ大会など地域のにぎわいに資する催事を計4回開催しました。 ・大佛次郎記念館とは、大佛次郎没後50年の事業として展示3本、公演2回を開催しましたが、財団の総合力を活かし、新たなネットワークをつくることができました。（使命5） ・障がいのあるお客様と同伴者のチケットサービスを継続しました。</p> <p>（使命6） 冷却塔配管ユニットの不調により空調が使用できない不具合が発生した際には、市へすみやかに報告を行うとともに、工事の際には、貸館への影響を考慮し、他館への移行も想定して、利用者や他館との調整し、リスク対応を十分に図りながら対応しました。</p> <p><b>【課題】</b> ・事業については落語以外の芸種についても視野を広げ、多種多様な集客方法を考えます。 また、コロナ収束後の人々の行動を踏まえつつ、とくに団体客の誘致の取り組みを積極的にすすめます。 ・光熱水費をはじめとする物価高騰を考慮し、安定的な予算執行を図ることに注力します。 ・野毛の地域との連携・交流を大切にし、街のにぎわいに寄与できるような事業や取り組みを引き続き継続します。 ・開館22年が経過し、施設の老朽化による突発的な不具合や部品供給の終了に対して、いかに施設運営に支障をきたさずに対応していくかが大きな課題と考えますので、横浜市と連携し情報共有を行います。</p>	<p>【評価できる点】 ・市民が大衆芸能に触れ、関心や興味を持つ機会を増やすため、年間234回もの自主企画公演の実施に加え、寄席体験や学校等へのアウトリーチやワークショップなどを通じて、あらゆる世代に大衆芸能を発信し、切れ目のない大衆芸能の普及事業を実施していることを評価します。</p> <p>（使命1） ・地元横浜出身の作家 長谷川伸の没後60年の記念公演といたってにぎわい座独自企画の事業等を行い、鑑賞型事業の入場者数が達成指標の95%と未達であったものの、多くの方に大衆芸能の魅力を届けました。</p> <p>（使命3） ・若手演者育成公演の平均入場者数（151人）が令和5年度達成指標を上回り、市民からも公演に注目が集まっているなど、若手育成に大きく貢献していることを評価します。</p> <p>（使命6） ・横浜にぎわい寄席へのシニア入場者数が2,096人、横浜にぎわい寄席の障がい者料金利用数473人とどちらも令和5年度達成指標を上回っており、大衆芸能を切り口として、世代や障害の有無を問わず多くの人を受け入れる場の提供に貢献しました。</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b> ・横浜にぎわい座は、公共施設として、市民に向けた大衆芸能の普及活動を継続して取り組んでいる、魅力のある施設です。 次世代へ大衆芸能を継承するため、業務計画に示している指標を意識しながら、各取組実績の振り返り・分析や改善を行い、大衆芸能を活性化させる新たな取組の検討を期待します。</p> <p>（使命2） ・小ホール の貸館利用率（50%）が達成指標（60%）未達となりました。新規利用者の開拓等の取組を期待します。 ・公演誘致が、達成指標を大きく下回っています。令和8年度の指標（10件）に向けて、具体的な取り組みの検討をお願いします。</p> <p>（使命3） ・子どもをターゲットとした事業数が達成指標を下回っています。令和8年度の指標（35件）を見据えて具体的な取組の検討をお願いします。 ・にぎわい寄席への学生、子ども入場者数が達成指標の50%の人数となりました。未達の要因について分析を行い、集客に向けた新たな取組の検討を期待します。</p> <p>（使命4） ・地域との連携を継続して行い、野毛の街及び周辺地域のにぎわいを生み出し、人々の交流・憩いの場として「地域に愛される施設」となること、「野毛のシンボル」となることを期待します。</p> <p>（使命5） ・シニア及び障害者の入場者数は達成指標を上回りましたが、令和8年度の指標は高い数値（3,000人）となっています。達成に向けて更なる取組を期待します。</p> <p>（使命6） ・施設や設備の維持保全に向けて、修繕箇所を日頃から洗い出し、計画的に対応していくよう心掛けてください。また、緊急対応が必要となった際にも迅速に動きが取れるよう、体制を引き続き維持してください。</p>		